

◆戦争が終わって20年経つて生まれた私は、祖父母も他界していたので、当時の話を聞くこともなく、もっぱら小説やドラマの中での「戦争」を見たり聞いたりするだけ。なにで、戦争の中生きた人達がどんな事を思い、どんなプレッシャーに耐えて、どんな世界を見ていたのか、よくわかりませんでした。でも、ふと思つたのです。コロナウイルスに怯え家にこもる今、「もしかして戦争の時つてこんな感じだったのかな」と。恐怖も閉塞感もプレッシャーもストレスも。そして大変な時代には、確かに違う空気が流れているのだという事に気がつきました。

八戸市の長谷川亜矢乃さん

◆「一つの花」「ちいちゃんのかげおりく」：このタイトルに見覚えがある方は多いと思います。40代の私も小学校の国語で学び、時を経て息子達も学んだこの悲しい物語が、戦争の悲惨さを知る人口となつた方が多いのではないでしょうか。息子も私も、そして私の両親も、戦争を経験してない幸せな世代。そんな幸運がこの先もずっと続くよう、戦争について小さなころから絵本や物語、体験を聞く機会を持つなど、知る・学ぶことがこれからも大切だと思います。一つしかない命の尊しさ、大切な人と過ごすことのできる、平和な日常のありがたさを知るためにも。

六戸町の金沢久美子さん

## 無関心が平和を脅かしている

◆終戦から75年。日本が無謀である可能性のない戦争をした事実は知っているものの、何か大切なことが抜けているような思いがありました。ここにきて、「青い目の人形」がそのことに思ひ至りました。青い目の人形は、日本の子供達との足掛かりとなりました。青い目の人形が、それビザとパスポートを携え、アメリカから日本までの乗船切符を持つて来日。全国の幼稚園や小学校に贈られ、広く親しまれました。戦争が始まるときの意図で人形は破壊され、子供達は動員されていきました。当時の子供達のおかれ状況、戦争の目に見えない部分



ぶ叫は童兒

叩き壊せ『青い眼の人形』

である情報操作された閉ざされた世界での集団心理のこわさ。開戦、終戦のそれぞれの日を境にどう変わったか、青い目の人が防空壕に首を入れた途端、爆撃されたという話も聞きました。向かう列車に転勤になりました。向かう列車

◆「どうして戦争を止められないのか？」の試問に答へた敵兵

◆「どうするか？」の試問に答へた敵兵

ありました。

◆「どうして戦争を止められないのか？」の試問に答へた敵兵

ありました。

◆「どうするか？」の試問に答へた敵兵

ありました。

◆「どうして戦争を止められないのか？」の試問に答へた敵兵

ありました。

◆「どうするか？」の試問に答へた敵兵

ありました。

◆「どうして戦争を止められないのか？」の試問に答へた敵兵

ありました。

◆「どうするか？」の試問に答へた敵兵

ありました。

◆「どうするか？」の試問に答へた敵兵